

若手研究者セミナー

21 Février 2024 17:00～19:00

À l'Université de Tokyo, Campus Komaba
Bâtiment 101 Salle 11 (EAA Seminar Room)
En Français (フランス語限定)

コメンテーター Valentine Zuber

ヴァレンティーヌ・ズュベール

フランス高等研究実習院(EPHE)教授

宗教学者。ライシテと人権に関する著作多数。主著に『人権の宗教的起源』(未邦訳;2017年)、『論争の中のライシテ』(未邦訳;2017年)、『忘れられた憎悪』(未邦訳;J.ポベロと共著;2000年)。

司会者 Date Kiyonobu

伊達 聖伸

東京大学総合文化研究科教授

宗教学者。主著に『ライシテから読む現代フランス』(岩波新書、2018年)、『ライシテ、道徳、宗教学』(勁草書房、2010年)。

発表者

Wada Moe « Les stratégies de l'État laïque dans une société post-séculière »

和田 萌 「ポスト世俗化社会におけるライシテ国家の戦略」

東北大学大学院国際文化研究科助教。著作に『移民を排除する安全保障—フランスにおける「つくられた脅威」』(勁草書房、2023年)。

Tanaka Hiroki « Toshiyoshi Miyazawa ou le premier théoricien de la laïcité au Japon ? »

田中 浩喜 「宮沢俊義—日本のライシテの最初の理論家？」

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程。共著に『宗教学』(伊原木大祐・竹内綱史・古荘匡義編、昭和堂、2023年、第13章)。

Shirao Asami « Enseigner les faits religieux à l'école : les enjeux pour la France et le Japon »

白尾 安紗美 「学校で宗教事象を教えるということ—

フランスと日本の課題」

東京大学大学院総合文化研究科博士課程

論文に「アルザス=モゼルの宗教教育とライシテ—良心の自由と宗教的多元性をめぐり—」(『年報地域文化研究』、2021年)。

